

# 会議結果報告書

令和元年8月23日

会議の名称	令和元年度第1回志木市複数・少人数指導体制推進事業検証委員会
開催日時	令和元年7月3日(水) 15時00分～16時30分
開催場所	志木市役所2階 201会議室
出席委員	安原輝彦会長、豊島典子副会長、飯田昌利委員、可知良之委員、木下武久委員 (計 5人)
欠席委員	(計 0人)
説明員職氏名	(計 0人)
議題	(1) 市内各校のスマート教員の活用状況及び効果的な指導事例について (2) スマート教員の運用状況について (3) 今後の検証に向けて
結果	(傍聴者 4人)
事務局職員	柚木博教育長、土岐隆一教育政策部長、阿部剛学校教育課長 大木雄平指導主事

## 審議内容の記録（審議経過、結論等）

### 1 開 会

### 2 委嘱状交付

### 3 教育長あいさつ

※委員を引き受けていただいたことに対するお礼

志木市複数・少人数指導体制推進事業は、来年度から実施される新しい学習指導要領の全面実施に向けて、また児童の基礎学力の定着と向上を目指して導入したものである。

すべての小学校に、きめ細やかな指導に当たる教員を配置したことになった。小学校1、2年生に1名、3、4年生に1名ということで配置し、学習のつまずきが見られる3、4年生には民間の教育事業者から派遣された教員を配置した。

このような取組は、他の自治体においてあまり例を見ない取組であることから、当初より現場の声を聞きながら検証を行い、改善すべき点は改善していき、子供たちにとってよりよい制度にしていくために、検証委員会を設置した次第である。委員の皆様には、委員会設置の趣旨を御理解いただいたうえで、忌憚のない意見をいただきたい。

### 4 委員紹介（自己紹介）

### 5 会長選出

※委員の互選により、会長は安原輝彦埼玉大学教授に決まる。

※志木市複数・少人数指導体制推進事業検証委員会設置要綱第5条4項により、副会長は安原会長の指名で、豊島典子宗岡第四小学校長に決まる。

### 6 議 題

（1）市内各校のスマート教員の活用状況及び効果的な指導事例について

【会長】事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料1ページのA小学校から、2ページのH小学校まで8校の様子をまとめてある。

資料1ページのA小学校と、資料4ページのA小学校は同じ小学校を表している。

この報告内容については、6月28日に市役所で実施した第1回検証委員会幹事会において、幹事の先生方（8つの小学校から1人ずつ）から報告された内容についてまとめたものである。

※この事業の目的として挙げている複数による指導体制、少人数による指導体制について、A小学校における体育の指導の様子、B小学校におけるスマート教員の細かな児童観察に基づく一人一人に合った指導の様子、D小学校における算数の授業でのコース別学習の様子、E小学校における算数でのティーム・ティーチングによる指導の様子及びE小学校のスマート教員はT2として指導に当たっていることを説明した。

【委員】“T2”とは何か。

## 【事務局】

担任がT1として、主となって授業を行う役目を担い、T2が補助的な役割として指導に当たる、ティーム・ティーチングの指導を指す。

※F小学校における、学習内容の理解が遅れている児童数人をスマート教員が集めて指導する様子について説明した。

1学期が始まって3か月になるが、4月、5月の学級経営を安定させたい時期は、スマート教員が学級担任を支える立場としてクラスに入り、学級経営が落ち着いてきたところから徐々に複数指導や少人数指導の方向へ進んでいくという報告が多かった。

### ○学校教育推進員からの現状報告

①スマート教員の技量に差があるというのが現状であるが、技量の差を補うため推進員が週1回各校を回ってスマート教員に指導している。

②学級経営が基盤となるが、スマート教員が授業に入ることでかえって担任に負担となる場合も考えられるので、担任とスマート教員が相談しながら進めているというケースもある。

③弾力的な活用があつてよいと思うが、一日中事務作業や授業中に丸付けばかりすることが常態化しないように配慮してもらいたい。

④勤務時間が8:30~17:00となっているので、スマート教員が17時で退勤となるように各学校で配慮してもらっているのはありがたい。

今後も、各学校で効果的な活用方法が多く出るように取り組んでいってもらいたい。

### ○幹事から出された課題や要望

①スマート教員には、市で直接採用している者と、Z会グループのエデュケーショナルネットワークから派遣されている者の2種類のスマート教員がおり、勤務内容が異なるので、その部分をもっと詳しく説明してもらえるとありがたい。

②本事業の目的から、スマート教員の配置が1年生から4年生までと決まっているが、特別支援学級にも配置できると、より子供たちに目が行き届くので、もっと柔軟な配置ができるとありがたい。

③企業派遣のスマート教員について、長期休業中は勤務しない契約になっているが、担任との打ち合わせの時間確保のために、長期休業中も勤務できるような契約内容に変えてもらいたい。

④日頃の打ち合わせ時間の確保が難しいので、スマート教員の勤務時間を8:00から16:30までに変更し、打ち合わせ時間を確保するのはどうか。

⑤配置されたスマート教員によっては、担任より年上でコミュニケーションが取りづらい場合もあるので、管理職がコーディネートすることによって話しやすい状況にしてもらえるとありがたい。

主体的・対話的で深い学びの実践が求められているが、今は基礎・基本となる内容の定

着を重視していたり、また、担任との打ち合わせ時間が確保できなかつたり、学校の事情でスマート教員が継続的に同じ教科の指導に入れなかつたりといったさまざまな課題がある。

#### ○事務局の考察

- ①4月から5月にかけては学級経営を安定させることに主眼が置かれていたため、担任とスマート教員とのティーム・ティーチングが多かったと考えられる。
- ②スマート教員が担当する授業は、国語や算数の他に体育も多かった。これは、5月に運動会を実施した学校が4校あり、運動会の練習にスマート教員が関わるというケースもあった。児童の個人差が生じやすい部分において、児童への指導に効果が期待できると考えられる。
- ③各校がスマート教員の特性を生かした配置を行っており、例えば外国語に堪能なスマート教員が外国語活動の授業に入るといったケースも2つの学校から報告されている。
- ④新しい制度になって間もないということで、想定とは異なる運用状況もあり、制度の目的や期待される効果について、改めて現場の教職員へ周知して、子どもたちの成長した姿の共有を図っていきたい。

【会長】今の事務局の説明に対して、聞いてみたいことや御意見があればお願いしたい。

#### 【委員】

スマート教員の指導力に差があるということが気になった。もしそのようなことがあるのであれば、改善を図っていただきたい。差があるということは、正直保護者は望んでいない。

ベテランの先生がいたり、新しい先生がいたりということで戸惑っている部分があるとのことだが、私が聞いた話によると、特に問題なく進んでいるとのことだった。

また、特別支援学級にもスマート教員が入った方がよいという話も出たとのことだが、現状として子供の様子から特別支援学級に入った方がよいが、親御さんが望まないので通常学級に在籍しているという子どもに対して指導してくれているので助かっているという話も聞いた。

#### 【会長】

基本的なことだが、スマート教員の名前の意味や、この事業の目的について簡潔に説明してほしい。

#### 【事務局】

スマート教員の命名については、英語のスマートS、M、A、R、Tを頭文字とした言葉で、Sは志木のS、Mは複数を意味するM u l t i p u l のM、AはアシスタントのA、Rは信頼される、信頼できるという意味のR e l i a b l e のR、TはティーチャーのTで、本事業の目的を表している。

本事業にシフトチェンジした目的は、大きく分けて2つある。1つは、3、4年生に対する学力向上で、主体的・対話的で深い学びを現場で実践してもらうことによって、子どもたちの力を伸ばしていくことを目指している。もう1つは、1、2年生に対して複数の教員が目で見ることによって落ち着いた学習環境をつくり、そこから子どもたちの力を伸ばしていくとともに、子どもたちが個性を発揮し、学校生活の中でそれを伸ばしていけるようにということを目的としている。

【会長】

委員から、スマート教員の差ということで話があったが、そもそもスマート教員の性別や年齢、経験年数等が多様なものになっていると考えてよいのか。例えば、年齢が全員20歳代であるとか、50歳代であるとか、そういった統一性はないのか。

【事務局】 ない。

【会長】

スマート教員自体にもそれぞれ個性があって、それを生かして仕事をしているということではどうか。

【事務局】 その通りである。

【会長】 他の委員はどうか。

【委員】

今の説明でなるほどと思ったが、特に3、4年生を中心に主体的・対話的で深い学びをねらいとし、今学校全体がそれに向けて取り組んでいるのだが、実際やるとなると相当難しい。教師の指導力がないと、ただ形だけの授業になってしまう。一見、主体的に活動しているように見えるが、実際には学習が成り立っていないということもある。前にも、総合的な学習の時間でよく言われたことである。

細かく学習内容を追求していくためには、教師がしっかり研修を積んでいかなければならないし、かなりの力量をもって臨まないと、主体的・対話的で深い学びを実現していくのは難しい。チーム・ティーチングにおいて、スマート教員はサブに回るのだが、サブに回った教員の力量が高い方がチーム・ティーチングではより効果を発揮すると私は思っている。一方、同じような力の教員同士が組んで授業を行うと、バランスよく子どもの力を伸ばしていく面もあるので、なおさら人は大事だという気がする。

【会長】 という意見も出されたが、他の委員はどのように感じたか。

【委員】

今、力量という話が出てきて、確かに力量の部分は今すぐに変えることはできないし、先生方はそれぞれ努力しているところだと思うが、一方でマンパワーという形で一人ではなく二人で見るといった形で補っていくということではできないのか。

【委員】

低学年は、落ち着いた学習環境づくりということで、そのようにしていくことで十分目

的を達成していけると思う。もう一つのねらいである、主体的・対話的で深い学びについては、今後まさに進めていかななくてはならないことである。これからの子供たちにこういう学力を身に付けさせていくという部分ではっきり言われている内容なので、この制度を使ってうまく進めていくためには、担任の力量がものすごく関わってくる。担任がスマート教員を上手に使っていく、活用していくというところまで考えていかないと、ただ1名いるだけでは、力は伸びない。

#### 【会長】

同じ志木の学校でも、学校規模が違ったり、クラスの数や、学校独自の実態がある。それぞれの学校でどうやって学力を伸ばしていくか。学習指導要領の内容である主体的・対話的で深い学びを目指していくかを考えていくことが大切だが、私は志木市がうらやましいと思うのは、他の自治体ではこのような取組をほとんど行っておらず、相変わらずみんな担任1人で授業を行っている。

複数で授業を行うことで、子どもたちに身に付けさせたい学力、要はいろいろな見方をしましよとかいろいろな考え方をしましよとか、相手の意見を聞いて自分の意見と比べたり合わせたりしていくといった求められる力が養える。今までのように暗記して覚えて試験ができればいいということではないのだが、すぐにできるかと言われるとそれは難しい面がある。ただ、大事なことは、複数でそれぞれの児童の個性、特徴を生かしながら子どもたちを見ていくということで、言葉で「主体的・対話的で深い学びを」と言うのは簡単だが、実際には難しい。要は小学校4年生までにスマート教員を活用して、その基礎をつくりましようということではないか。

どういうことかという、子どもたちが自分で「分からない」と言えて、分からない部分を教えてあげる子どもたちが出てきて、分からないところが少しでもなくしていけるような活動が、実は主体的・対話的で深い学びなのではないか。1人の先生が40人程度の児童を見ていくだけでなく、教員同士もお互い見方・考え方を多角的にぶつけながら、児童の実態を見極め、この子とこの子を一緒に学習させてみようかといった具合に取り組める可能性が出てくる。若手の教員もいれば、ベテランの教員もいるので、学校の実態に応じてうまく活用してもらえれば、担任が生きる体制にしていけば、新しい学習が生まれていくのではないか。

注意しなければならないのは、事務局の話にもあったが、若い教員がベテランの教員に変に遠慮してしまい、本当はこうしたいのに、といったような思いをどのように取り除いていけるかという点である。若い先生がベテランのスマート教員と一緒に組んでも、お互いわだかまりなく言い合える雰囲気をつくっていくことができれば、すごくよいのではないかと感じた。スマート教員の差を心配するより、失敗しながら進んでいく方が可能性を感じる。

小学1、2年生の段階で、“学校で勉強することが楽しい”と思えないと、勉強嫌いの

子をつくってしまったらまずいし、小学3、4年生では具体概念から抽象概念に行く最初の発達段階であることから、抽象概念からできるようになる子どもを育てられたら、その後の力の付き方にすごく影響をもたらす。そういった意味で、今後スマート教員と担任がチームを組むときに、何をキーワードにするのか、学校全体で考えていく必要があると思う。

#### 【委員】

学校の中でも、スマート教員の活用の仕方について本年度初めてということもあり、いろいろと考えながら進めているところである。

教員1人当たりが見る子どもの人数が少なければ少ないほど目が行き届くので、これまでいろいろな制度があったと考えているが、今回のスマート教員の配置によって、担任が多くの子どもを見なくてはならなかったのが、ある1グループの子どもたちを見ればよいとか、違う角度から見るとかできようになった。

そこで、1年生の導入期では、生活科の時間に学校の施設を使い、1クラスを半分に分けて、A先生と一緒にトイレの使い方を学習する、B先生と一緒に違う教室の使い方を学習するという活動を行い、半分の時間でA先生とB先生が交換すれば、1人の先生が全員の子どもたちを連れて歩かなくても授業ができた。難点は、4クラスあるので、1人のスマート教員が1クラスずつ入ると4時間かかるので、1日に1時間ずつぐらいしか入れない。そこは、2クラスを3つに分けたり、4クラスを5つに分けたりすれば活用できるのかもしれないが、毎時間集団が変わるのはやりづらい面があるため、今のところ1年生に関しては、各クラスに補助的に入って、先ほどの例のような少人数での学習を進めている。

学力を高めるということは、スマート教員を国語や算数に配置するということなのだが、1年生は生活の仕方を身に付け、学習の姿勢を築くという部分があるので、スマート教員が補助的に各クラスに入っている。2年生については、学習教材の準備や授業での説明に必要なことの準備等、担任の時間の節約につながっている。45分の授業時間が、60分学習したのと同じ内容になるようなことを各クラスで模索しているところだが、1クラスが上限の35人いることもあり、2つに分けても18人・17人ということで、いろいろな方法を考えながら取り組んでいる。

授業中の見届けやつぶやきを拾う、授業中に困っている児童の様子や報告等、スマート教員の動きによって担任が助かっている。担任自身の目でしか見られなかったのが、スマート教員の視点も取り入れられるので、児童の実態に合った指導ができています。

先ほどの力量という部分は私もすごく感じていて、例えば学力だけを付けていくと考えていて、学習塾の教員を配置するのであれば、1、2年生につくスマート教員と3、4年生につくスマート教員とでは、求めている質が最初から違うということになる。今はみんな同じスマート教員ということで多角的に児童を見られるような活用ができていていると思うが、せっきく民間から来ているということを見ると、どのように活用すれば有

益になるのか。そうすると、高い技術や指導法がほしいと感じてしまうところだが、実際のところどのようにスマート教員を活用すればよいのか、私たちが教わりたいと思う。

#### 【委員】

今の話を聞いていて、学校はある程度非合理的なところかもしれないが、例えば1クラスを2つに分けて授業を行うのは、「合理的」というキーワードに基づき、子どもたちにスマート教員を振り分けていく。それだけでは学校教育は生まれないと思うが、ただそういう考え方があってもよいと思う。

また、部下に仕事を一通り教えた後に、また別の部下が来て一から教えるということがあると合理的ではないし、うまく運用されないのではないか。また、担任とスマート教員とでもっと話す時間がほしいという話があったが、それもキーワードの1つとして今後の運用のことを考えていかないといけないのではないか。

また、丸付けだけをしていることがないようにという話も出たが、これだとただの作業要員であり、この制度で求めていることではない。もっと対話をしながら、合理的に運用する部分は1～4年生それぞれの特性に応じて進めていってはどうか。

#### 【会長】

資料1ページのB小学校の最後に、研修の話が出てくる。スマート教員だけが研修するのか、スマート教員と一緒に授業する担任等も研修に参加するのか。一緒に、どうしたら子どもの力を付けていけるのか、多様な子どもたちを見ていけるのかについて、きちっとした研修というよりは、お互いがコミュニケーションをとって研修の時間をつくっていけば、スマート教員の運用はうまく進んでいくと考える。英語に堪能な方もいれば、指導力が足りないという方もいて、お互いが補い合っていけるのでは。

スマート教員はあくまでもアシスタントだと、いい意味で捉えて活用していく。マルチプルに授業を進めていく中で、リライアブルな関係ができ、勉強が楽しいと子どもが感じられる授業づくりを、1人ではなくみんなで考えていけるような研修が必要ではないか。

アルバイトしている学生の様子で、正社員とアルバイトの間でコミュニケーションがきちんととれている職場では、アルバイトが辞めないという話を聞く。コミュニケーションが図れていない職場だと、早い段階で辞めてしまうケースもある。教育のことをよく分かっている担任等が、コミュニケーションの部分でもっと工夫していけば、活用状況がさらによくなることも考えられる。

#### 【委員】

教員全体で学び合っていくということは必要なことだと思う。一方で、市で面接選考をして配置されているスマート教員と、派遣で配置されているスマート教員がいるが、派遣のスマート教員については学力向上という目的があるので、ある程度会社で研修を積んだ教員を配置することがあってもよいのではないか。そうでないと、力量の差という課題が



生じてしまう。確かに今の世の中は、人材確保という点で難しい部分があるが、ALT（※外国語指導助手のことで、優れた英語力を生かして担任と共に英語の授業を進めている）が現場に配置される前にいろいろなことを学んでいることと同じようにできるのではないかな。

**【会長】**

派遣元がどのような研修をしてきているかについて、事務局の説明を求める。

**【事務局】**

計画に則って会社の方で研修をしている。教育委員会としては、学校の意見を会社に伝え、より力量が高められるように、また事業の目的を達成できるように、会社と連携しながら進めていきたい。

**【委員】**

派遣のスマート教員は、少なくとも1年間はずっと同じ教員が配置されるのか。

**【事務局】**

教員がころころ替わってしまうと、教員と子どもとの信頼関係がうまく築けない恐れがある。基本的には、年間通して同じ教員を配置することを考えている。

**【委員】**

今のところ、まだスマート教員は代わっていないか。

**【事務局】**

今のところ代わっていない。

**【会長】**

今回議論している内容を、会社に伝えることは差し支えないのか。

**【事務局】**

学校から、スマート教員のよい部分、課題となる部分について情報が入ってくるので、その点について会社と情報共有を図り、必要に応じて会社の方からスマート教員に助言してもらおうようになっている。

**【委員】**

プロポーザル方式で会社を選定する際のプレゼンテーションに参加していたのだが、説明の中で研修をしっかり行い、力のある教員を配置すると言っていたので、その点について期待して待っていた。

自分の学校に配置されているスマート教員は、ものすごく一生懸命やっているが、経験が浅いので、一つ一つ教えながら進めている。まさに「アシスタント」の役割で、2つに分けての授業はできていない。チーム・ティーチングの中で、アシスタントとして動いている。チーム・ティーチングにおける役割などを、一つ一つ列挙しながら校内で研修しているといったところである。

**【会長】** 毎日が研修といった感じか。

**【委員】**

そのような感じである。半年ぐらいやっていけば、かなり力がついてくると思う。正直なところは、即戦力に来てもらいたかった。

**【会長】**

お子さんや周りの保護者から、スマート教員の様子について話を聞くことはあるか。

**【委員】**

私の学校については、授業の補助に入っている先生がいるということに関して、良い評判を耳にすることが多い。学校に行って先生方から話を聞くと、若い先生が多いこともあってか、授業の補助に入る先生がいることをありがたがっている感じである。若い先生同士ということで仲良くやっている雰囲気を感じるし、スマート教員だからと分け隔てて考えるようなこともないと感じる。

学校におけるスマート教員の活用の仕方に関して、配置を考えて指示をしていくのは校長の権限なのか。

**【委員】** 校内の人事になるので、校長の役割である。

**【会長】** このクラスにこの教員を配置するというのは、校長先生が考えていることか。

**【委員】** そうである。

**【委員】** 先生の能力などを見て、どのクラスがふさわしいか決めていくということか。

**【委員】**

その通りである。今回、派遣のスマート教員は3、4年生に配置するというのを市教委から指示されているので、それ以外の学年には配置しないようにしている。

**【会長】**

例えば、1学期は3年1組だったけれど、2学期は4年1組に配置するということはできるのか。

**【委員】** それは可能である。

**【会長】**

1学期は4年生で指導していたが、様子を見てみると2学期からは1年生に配置した方が能力を発揮できそうだからということで進めていけば、相乗効果が期待できるし、その教員にとってもプラスに作用するのではないか。そのような弾力的な配置はできるのか。

**【委員】**

派遣のスマート教員であれば、3、4年生の中でということにはなるが、それはできる。1、2年生についても同様である。それは、この制度の中で目的に関しての色分けがある。

**【会長】**

担任の先生はクラスを変えることができないが、スマート教員はそれぞれの能力や個性に応じて、場合によっては学年やクラスを変えて配置するということはあり得るといふことか。

**【委員】**

各学年に配置した教員の年齢や経験年数等をふまえ、スマート教員の配置や活用について、教頭や教務主任らと話をし、どんな構想ができるかという話を聞いたり要望を聞いたりし、それに沿った形で最終的な配置を決めていった。

志木市はたくさんの支援員が配置されるが、支援員は教員免許を持たないので支援員とは活用の仕方が違う点、スマート教員が配置される目的があるという点、これまでのハタザクラ制度と趣旨が違い、民間の教育事業者から派遣されて指導力をもった先生が来ている。ただ授業中支援に回るのではだめだという点をふまえ、話し合いをもって配置の仕方を決めた。

1、2年生は4クラスあるが、スマート教員を入れると5人の教員がいる。いずれ機会があったら、担任は1年2組誰々、1年3組誰々ということではなく、4クラスを5人で見ていくという形にすることで、学年の指導に偏りが出ないようにするのではないかと考えている。

**【会長】**

要は、教科のアシスタントして働くこともあるし、学年のアシスタントとして働くこともあるし、学級のアシスタントとして働くこともあるという活用の仕方ができればすごくよいという話だと思うが、そのような活用を行ってもよいのか、事務局としてはどうか。

**【事務局】**

先ほど委員の話にもあった通り、こちらでお願いしているのは、3、4年生に1人、1、2年生に1人配置するという事なので、その枠の中であれば、そのような配置、活用は構わない。それぞれの学年や学級の実情に応じた運用をぜひ進めてもらうことで、子供たちの力を伸ばすことにもつながる。

**【会長】**

しばらくやってみないと分からない部分もあるが、そのような活用は可能だということで理解した。

**【委員】**

D小学校において、1クラスをぐんぐんコースとゆっくりコースに分け、ゆっくりコースをスマート教員が指導しているというのは、どう活用しようかということを考えながら、6月はこういう点に重点を置くといった具合に進化させていこうと、ある意味試行錯誤しながら良い方向に進んでいるのではないかと感じるし、上からの指示ではなく、現場の先生方が校長先生を含めて話し合っただけでこのような形になったのは、制度が良い方向に向かっているのではないかと感じるし、もっともっと面白い活用の仕方が出てくるかもしれない。

**【会長】**

先生方が新しい制度に慣れていない状況なので、いろいろなことが課題として出てくる

と思うが、枠の中で活用の仕方を考えられるのであれば、制度を生かせる部分はたくさんある。

**【委員】**

この制度が今後進んでいく中で、温度差が生じると思うが、その際に全小学校での共通認識だったり、いろいろな考えを合わせていったり、目的に合うように軌道修正したりしていくのは、この委員会で行っていくのか。それとも、校長会や教頭会において報告をしていくようになるのか。

**【会長】**

私は、客観的に志木市でこのような取組をしているということに関して、頭の中で全国各地の様々な取組と比較しながら聞いている部分がある。「この委員会で」という言い方がどうなのかと思う部分はあるが、例えば校長会とか、この委員会も含めて教育委員会とか、定例の教育委員会とかいろいろなところでスマート教員について話題に出してもらって、出された意見をうまく生かしていけるとよいのではないか。

**【委員】**

うまく活用できている学校もあれば、どのように活用すればよいか困っている学校もあるかもしれないので、考え方のレベルが同じになれるような仕組みや取組をしていかないとならない。

**【会長】**

もう少し時間が経ち、それぞれの学校の良さというものを、学校同士で共有できれば良いと思う。そういう風に活用しているのかとか、そこで失敗してしまったのかといった点も含めて、意見交換できることが大切である。

**【委員】**

この会の前に、各学校の教員の代表が集まった幹事会が行われ、今回の資料に挙げられた内容について話し合う機会があったが、学校間で“そうなのか”という話がいろいろ出てきた。

**【会長】** そういう話をするのは、とても大事である。

**【委員】**

学校によって、活用の仕方もスマート教員の特性も違い、体育や音楽の指導に入っているなどさまざまな活用方法があり、説明や要項だけでは分からないような活用状況などの情報交換ができた。

それを受けての今回の会なので、校長の立場やPTAの立場など、いろいろな方向から見て、検証というか、良い点や、課題として今後修正していかなければならない点などを挙げて、進めていくのがよいのではないか。

校長会でも話題になるのだが、教員側から見た細部までなかなか分からない部分もあるので、意見などを合わせるというのはとても良い。

**【会長】**

次の議題に移ってよろしいか。また、その中で意見を出していただいで構わない。

(2) スマート教員の運用状況について

**【会長】** それでは、事務局より説明をお願いします。

**【事務局】**

5月24日までの運用の記録をまとめたものを、資料2で示している。

議題(1)で委員の方から指摘があった通り、運用面では各学校で模索している部分があったということが、資料2に表れている。

①市で採用しているスマート教員については、落ち着いた学習環境づくりのために、1、2年生に入っているところであるが、学校事情によって他の学年に入っているケースも見られる。表に出てくる「その他」については、体育、生活科、理科、社会、外国語活動などが入る。

②市で採用しているスマート教員については、フルタイムで勤務している者と短時間で勤務している者がいるので、表の中で区別できるようにしてある。

③派遣のスマート教員については、a～hがそれぞれ市採用の表のA～Hと同じになっているので、a教諭はA小学校に配置されているということである。3、4年生を中心に配置されており、特に算数の配置が多いが、学校事情により低学年に配置されているケースも見られる。

④教員によって時数の合計が異なっているが、これは学校規模によってクラス数が異なり、入れるクラスの数が変わってくるということがあり、職員室でプリントの作成をしたり教材準備をしたりしているためである。

**【会長】** 今の説明について、何か意見はあるか。

**【委員】** 表の「5、6年」について説明をお願いしたい。

**【事務局】**

年度当初の運用のところで、外国語活動や体育、算数などの授業に入っているという事例があったので、表に計上した。5、6年生の運用については、先日の校長会で学校教育課長から、派遣のスマート教員については3、4年生での運用でというお願いをしたところであり、既に是正されている。表の数値は5月24日までのものなので、年度当初の混乱からそのようなことになってしまっている。

**【会長】** 5、6年生に入ったのは、外国語の得意な先生なのか。

**【事務局】** その通りである。

**【会長】**

外国語活動の時数が増えているところなので、きっとそのような活用を考えたのかもしれない。いずれにしても、今は是正されている。

この表を見ると、市採用のスマート教員は、落ち着いた学級づくりのサポートや学習習慣や生活習慣の定着におけるサポートを行っていて、民間の教育事業者から派遣されたスマート教員は、3、4年生の算数において分数の概念といった難しい内容でアシスタントしているといった形が見える。

**【委員】**

本校の例を挙げると、本当に1年生が落ち着いている。2名体制で、1年生の1学期は特に大変なのだが、当たり前ではあるがちゃんと座って5時間目までしっかり授業を受けているので、効果は非常にあると思っている。1年生に重点的に配置を行ったので。

**【会長】** 4、5月と特に大変であろう。

**【委員】**

本校の場合は、ベテランの女性の教員なので、経験のある人材が配置されると効果は絶大であると感じた。

**【委員】**

スマート教員がいると、教員の目が増えるので、保護者の方も安心できる。どの学校、どの学年にも言えることであるが、子どもたちがかわいそうな思いをすることが一番よくないので、どの子にも目が行き届くという点でも大変助かっている。

**【会長】**

5、6年生に配置してはいけないというところで配置してしまったという点があったが、今は是正されているということである。今後どのようになっていくかということについては、2学期になってもいろいろ課題は出てくると思う。子どもたちが、スマート教員との人間関係の部分でいろいろ感じてくると思うので、それが可と出ることか不可と出ることかということも今後表れてくることを見ていく必要がある。

(3) 今後の検証に向けて

**【会長】** 議題(3)について、事務局より説明を求める。

**【事務局】**

検証委員会及び幹事会の検証の流れなどについて説明する。

6月28日に幹事会を実施し、各校幹事よりスマート教員の活用状況の報告を受けた。その内容について、本日の検証委員会で報告するとともに、今後の検証の方向性について確認していく。

幹事会では、現場の先生から状況報告をしてもらうとともに、よりよい実践が行われるよう、優れた実践例を共有し、年度末に向けて指導事例をまとめていくという流れで進めていく方向で考えている。派遣のスマート教員に関しては、会社の方に来ていただいた方が協議が深まることもあるので、場合によっては会社の方に加わってもらい、現場の先生方との意見交換の場としてもよいのではと考えている。

検証委員会については、2学期、委員の皆さんに授業参観していただき、スマート教員が日頃どのように授業に関わっているのか、それによって子供たちにどのような効果がもたらされているのかというところを実際に見ていただきたい。どの学校で見えていただくかはまだ決めていないが、授業参観を通して事業の今後の方向性など、さらに意見をいただきたいと考えている。

検証内容について、本事業の目的2つ（※①主体的・対話的で深い学びが、さまざまな教科等の授業で取り入れられることで、児童の学力向上につながるであろう。②複数の目で児童の様子を見ることにより、落ち着いた学習環境を形成することができるであろう。）を達成するために、どのようなことを検証していけばよいのかについて、6ページにまとめた。

①主体的・対話的で深い学びを効果的に取り入れた授業の実施については、県が毎年4月に実施している学力・学習状況調査の結果をもとに分析していく。ただ、今回出てくる結果については、昨年度の指導を受けてきたものが数値として表れるので、来年度の結果、再来年度の結果を経年で追っていく必要がある。

②本事業は1年生から対象となるが、県の学力・学習状況調査は4年生からなので、1～3年生についても児童向けの意識調査を行う必要があると考えている。調査の内容、文言などについては、幹事会で検討していく。教員の指導事例についても、検証委員会で報告し、よりよい指導法について委員の皆さんから意見をいただき、各学校に戻せればと考えている。

③学力向上への効果については、昨年度から開始した、1～3年生を対象とした市の学力・学習状況調査の結果が出るので、数値の分析を進めていく。

④落ち着いた学習環境づくりへの効果については、子供たちや先生方への聞き取りだけでなく、保護者の方への聞き取りが必要だと考えている。

⑤スマート教員の配置と運用についても、先生方や会社の方への聞き取りを進めていく。もしくは、アンケートを実施しその結果を分析するという事で進めていく。

⑥教材作成のノウハウについては、スマート教員を派遣している会社から具体的にどのようなノウハウを提供され、どう生かされたかについて、成果と課題の部分を先生方への聞き取りや会社の方との情報交換によって検証を進めていく。

⑦スマート教員の力量の差について先ほど話があったが、スマート教員への研修のあり方について、市教委で1学期に2回研修を開き、また学校教育推進員が週1回各学校を回って研修をしているところである。

今後どのように研修を進めれば先生方の力量が上がるのか、またスマート教員にだけ研修をすればよいのか、担任の先生方への研修が必要なのかどうか、委員の皆さんから意見を伺い、今後の研修の進め方について検討していく。

県の学力・学習状況調査の質問紙調査の中で、主体的・対話的で深い学びの実現に向け

た内容に係る調査項目を資料7ページで5点挙げている。これは、事務局の方で挙げた例なので、委員の皆さんには、お気付きの点を挙げていただき、検証の方向性を決めていきたいと考えている。

【会長】今の事務局からの説明について、質問や意見はあるか。

【会長】

次回の検証委員会は11月に授業を見て、第3回では幹事会からの報告や客観的なデータに基づいた検証を進めるという流れでよろしいか。他に何かあるか。

【委員】特にない。

【会長】

では、今回は11月ということで、研修の状況なども含めて、また皆さんで話し合っていければと思う。全体を通して何かあるか。

【委員】

最後に1点だけ。昨年度までハタザクラ教員が配置されていた時には、学校の規模によって市独自の基準で1学級立ち上がることで、1学級あたりの人数が減る学校がある一方で、制度によっても学級の規模が変わらない学校もあった。今回の新しい制度になったことで、昨年度までの様子と同じ秤で測られるのかということになる。

3クラスが4クラスになった場合に、先生の力量が全て同じだったとして、多い人数の3クラスよりも少ない人数の4クラスでやった方がよいということになったケースと、あるいは3クラスで変わらない学校に先生が1人ついたケースとで、効果の違いを図るのは難しいと思う。本校は、変化の大きかった学校なので、学力の面で昨年度より上がった下がったと見られてしまうのは……。

【会長】

そもそもスマート教員のねらいが、ハタザクラ制度のものと違うのであれば、比べる必要はないし、比べてもあまり意味はない。

【委員】制度の内容が分かればよいのではないか。

【会長】

改善していくという視点でデータを活用すればよいわけで、比較することに意味はない。

【委員】

「身に付いた」「身に付かない」ということでは見ていくことになるのでは。どの部分を効果として見ていくのか。落ち着いた生活ができているか、なのか。

【会長】

その部分もさまざまな条件があるので、それらを勘案しながら全体的に見ていく中の1つの指標に過ぎないと捉えるとよいのでは。



**【委員】**

何をもってこの制度の効果があったのかとするのか。良い部分をいろいろ挙げていけばよくて、実際の検証の中で数値的にとらえるために、学力調査の結果を出してきているのだと思うのだが、同じ秤ではないということも今後の検証の中で話題に上げてもらえるといい。

**【会長】**

このことは、1つの意見として受け止めさせていただく。

進行を、事務局に返す。

7 その他

特になし

8 閉 会